

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 12 月 27 日 (2007.12.27)

【公表番号】特表 2007-512377 (P2007-512377A)

【公表日】平成 19 年 5 月 17 日 (2007.5.17)

【年通号数】公開・登録公報 2007-018

【出願番号】特願 2006-541731 (P2006-541731)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/7088 (2006.01)

A 6 1 K 35/76 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 35/76

A 6 1 P 17/02

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 11 月 6 日 (2007.11.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

創傷を有する被験体の皮膚において癬痕を減少させるための組成物であって、該組成物は、発現カセットを含むポリヌクレオチドを含み、該発現カセットは p 2 1^{W A F 1 / C i}_{P 1} をコードするポリヌクレオチドに作動可能に連結されたプロモーターを含む、組成物。

【請求項 2】

前記 D N A がベクターの一部であることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記ベクターがウイルスベクターである、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記ウイルスベクターがアデノウイルスベクターである、請求項 3 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記アデノウイルスベクターが複製能欠失アデノウイルスベクターである、請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記組成物の投与が、未処置の創傷における癬痕と比較して、前記創傷におけるケロイドまたは肥大型癬痕を減少させることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記アデノウイルスベクターが前記創傷 1 c m² あたり 1 0⁵ ~ 1 0⁹ 粒子数 (P N) の用量で投与されることを特徴とする、請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 8】

前記ベクターが生体適合性マトリックス中で投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 9】

請求項 8 に記載の組成物であって、ここで前記マトリックスは、膠原性の組成物、金属組成物、ヒドロキシアパタイト組成物、バイオガラス組成物、アルミン酸塩組成物、バイオセラミック物質組成物、精製されたタンパク質の組成物または細胞外マトリックス組成物を含む、組成物。

【請求項 10】

前記マトリックスが膠原マトリックスである、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記皮膚が火傷をしている、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 12】

発現カセットおよび薬学的に受容可能な賦形剤を含む薬学的組成物であって、ここで該組成物は局所的投与に適し、そして該発現カセットは p 2 1 ^{W A F 1} / C i p 1 をコードするポリヌクレオチドに作動可能に連結されたプロモーターを含む、薬学的組成物。

【請求項 13】

前記発現カセットが生体適合性マトリックスに含まれる、請求項 12 に記載の薬学的組成物。

【請求項 14】

前記マトリックスが前記発現カセットを含むウイルスベクターを含む、請求項 12 に記載の薬学的組成物。

【請求項 15】

前記ウイルスベクターがアデノウイルスベクターである、請求項 14 に記載の薬学的組成物。

【請求項 16】

前記アデノウイルスベクターが複製能欠失アデノウイルスベクターである、請求項 15 に記載の薬学的組成物。

【請求項 17】

請求項 12 に記載の薬学的組成物であって、前記マトリックスが、膠原性の組成物、金属組成物、ヒドロキシアパタイト組成物、バイオガラス組成物、アルミン酸塩組成物、バイオセラミック物質組成物、精製されたタンパク質の組成物または細胞外マトリックス組成物を含む、薬学的組成物。

【請求項 18】

前記マトリックスが膠原マトリックスである、請求項 12 に記載の薬学的組成物。